

# 雑草はこまめに除去

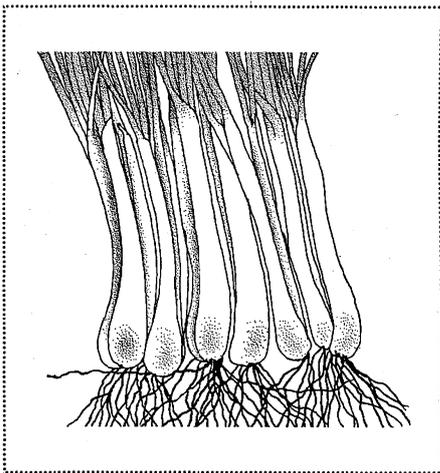
—— 鮫島 國親



鹿児島県は日本一のラッキョウ生産県です。とりわけ、砂地で生産される、いわゆる「砂丘ラッキョウ」は、肌の白さと歯切れの良さが高く評価されています。多くは塩漬けや酢漬けに利用されますが、機能性が高く、古くは薬用に使われたようです。生食もでき、サラダや天ぷらなどいろいろな料理法が開発されています。

深く土寄せして葉鞘部が軟白された若どりの葉付きラッキョウ（エシヤロット）も販売されています。栄養繁殖作物で、秋に種球を植え付けると、やがて、芽が出て葉が伸び、紫色の花が咲きます。その後年内に球数が増え、早春から5、6月ごろまで急速に球が肥大し、夏には地上部が枯れます。今回は露地普通栽培を紹介します。

生育適温は20～23度で暑さにはあまり強くありません。乾燥に強く、やせ地でもよくできますが、過湿には弱いので砂地や火山灰土などで、排水のよい畑を選びましょう。連作やネダニのつきやすい野菜・花との輪作は避けたいです。



植え付け適期は9月下旬ごろです。本ぼには1平方メートルあたり苦土石灰80g、堆肥1～2kg、化学肥料100g（三要素15%の場合）を目安として施します。栽植密度はうね幅30～35cm、株間10～15cm、一条、又はうね幅60cm、株間12～15cm、二条とします。

植え付け方法は、深さ10cm程度の溝を切り、種球を溝に直立もしくは斜めに置き、種球の先端がわずかに見える程度に土をかぶせます。追肥は植え付け1カ月後から月に1回、3回程度行います（化学肥料20g/回）。追肥と同時に軽く土寄せを行い、球の緑化を防ぎましょう。

雑草は生育や肥大を妨げ、収穫を困難にします。小さいうちに除草しましょう。収穫適期は5月から6月です。天気の良い日に掘り上げ、根と葉を切り離し、よく乾かします。種球は6月中旬以降に掘り上げ、大球（6～10g）で無病のものを選び、調製後ネット袋に入れ、風通しのよい場所に貯蔵します。種球を掘り上げず、そのまま畑で貯蔵する方法もあります。

（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

平成20年7月10日（木）／南日本新聞